

特42

455

亂曲集

觀世清孝改正

甲
下

№8687

靠車

隱岐院

由良物狂

横山

五輪碎

賀茂物狂

至島門

博多物狂

更科



舞車

廿三
 凡侍辨如語子乃たるいん十二入
 女第一紀有常り息女才二女反
 忠仁公乃御息女清和天皇の后宮り
 深敷表后是あり 才立よの長柄の
 乃のいしよめ等六ち筑け云表深り表
 里の女ありけり才十八増尾口乃妹り

靈死乃女是也十一周防のりは原
 表仲平うしむを先なるきり十二又
 大和守終景う息女よ今れ侍執に
 有る其名乃雨を書かしく居宮の
 うやまうは又猿子乃あこそを
 教まよひの社よありて日教を
 くらし入るもとる熱誠志きりしに降あ

感應いふくならんと頼を
 加きぬくさか神の御前ま
 志のよ法施をいもも宮入と様
 上
 ま方神よの如深を尋め
 いさよ對面乃もあ侍物物語の
 眞儀さくくわんいさ
 うらたそろ具にたらの耶尔あり

てなむあしむのふかきふかきなる候
大衆中にあらざるにけり
候

同

此穀山延暦寺の僧侶は皆坊の僧に
まゝ貴寺の人柄にまじりて入寺に伏
表夏の衣をまゝして明をぬき候

乃寔の前十葉表度乃候なり又瑜
伽の法水とぞいへて三密の月とて
志乃るよ 事戸御候とくだく
起り候あり候も思ふべき
ひらきかゝる候もさう二月の後乃
立りて世を中し候もさう菅
悉相もくたつまひ不思候中とぞ

か、徳一公、今、深夜、表、御、免、所、行
 度、よ、か、ま、し、有、り、及、菅、原、忠、家、と、り、く
 宣、り、く、お、ろ、む、女、子、生、れ、く、と、宣、ひ、禮
 言、ち、つ、ら、な、り、禮、儀、表、あ、ら、む、報、き、ん
 ち、め、電、と、な、り、七、時、入、王、立、ち、ま、ら、し、ま、を
 威、多、し、目、出、所、な、ら、む、り、あ、ら、む、勅、使、あ、り、を
 内、裏、子、と、ま、り、給、ま、し、お、ろ、む、女、子、と、り、く、此

恩、と、お、ろ、む、報、せ、ま、ら、む、り、か、歌、に
 中、了、り、ゆ、り、あ、ら、む、り、あ、ら、む、勅、使
 由、と、な、り、一、度、也、に、あ、ら、む、り、勅、使、三
 所、よ、た、よ、ら、む、菅、原、忠、家、下、卒、去、り、ら
 王、去、り、あ、ら、む、り、あ、ら、む、り、あ、ら、む、り
 外、子、と、ま、り、つ、つ、柄、首、は、前、よ、松、楯、と、墨

夢の夜に雲津の山をみるに
 夢の思ひを思ひて思ひて
 まつらうとて又歸りてお都路に
 夢の色やまの日光雲井の歌よ
 夢の思ひを思ひて思ひて
 まつらうとて又歸りてお都路に
 夢の色やまの日光雲井の歌よ
 夢の思ひを思ひて思ひて
 まつらうとて又歸りてお都路に
 夢の色やまの日光雲井の歌よ

夢の思ひを思ひて思ひて
 まつらうとて又歸りてお都路に
 夢の色やまの日光雲井の歌よ
 夢の思ひを思ひて思ひて
 まつらうとて又歸りてお都路に
 夢の色やまの日光雲井の歌よ

隱岐院

兼久二年七月八日
 時氏鳥羽殿
 給ふあり御出家なして叶ま

情_二あ_一く_二ト_一上_二き_一の_二名_一、_二つ_一ら_二乃_一を_二く_一
 王_一と_二後_一と_二は_一く_二を_一た_二ら_一す_二は_一ら_二も_一
 誇_二夏_一の_二所_一染_二と_一の_二精_一と_二く_一初_二夜_一と_二は_一
 二_三中_一に_二似_一と_二繪_一と_二う_一も_二た_一ら_二て_一七_三条_一
 の_二女_一院_二よ_一多_二葉_一と_二ら_一お_二女_一院_二を_一登_二る_一あ_二も_一
 志_二と_一朱_二明_一門_二院_一と_二河_一同_二車_一と_二も_一て_二鳥_一
 羽_二殿_一と_二御_一幸_二も_一も_二た_一ら_二て_一庭_二上_一ら_二

煙_二車_一と_二あ_一ら_二本_一の_二河_一院_二の_一清_二き_一は_二
 せ_二う_一あ_二て_一河_二院_一と_二ら_一指_二出_一と_二く_一唯_二
 二_三中_一に_二似_一と_二繪_一と_二う_一も_二た_一ら_二て_一七_三条_一
 の_二女_一院_二よ_一多_二葉_一と_二ら_一お_二女_一院_二を_一登_二る_一あ_二も_一
 志_二と_一朱_二明_一門_二院_一と_二河_一同_二車_一と_二も_一て_二鳥_一
 羽_二殿_一と_二御_一幸_二も_一も_二た_一ら_二て_一庭_二上_一ら_二
 情_二あ_一く_二ト_一上_二き_一の_二名_一、_二つ_一ら_二乃_一を_二く_一
 王_一と_二後_一と_二は_一く_二を_一た_二ら_一す_二は_一ら_二も_一
 誇_二夏_一の_二所_一染_二と_一の_二精_一と_二く_一初_二夜_一と_二は_一
 二_三中_一に_二似_一と_二繪_一と_二う_一も_二た_一ら_二て_一七_三条_一
 の_二女_一院_二よ_一多_二葉_一と_二ら_一お_二女_一院_二を_一登_二る_一あ_二も_一
 志_二と_一朱_二明_一門_二院_一と_二河_一同_二車_一と_二も_一て_二鳥_一
 羽_二殿_一と_二御_一幸_二も_一も_二た_一ら_二て_一庭_二上_一ら_二

秋乃夕音多よ暮まじりて
 物乃秋の山吹落くはら
 志三度まじり隠岐の海
 新島に宿もす

同

上
 伊七家乃友はくも身羽殿
 弱女はくも色はくも

思ひはくも色はくも
 六
 人前陣入はくも首官
 常
 唐人の様
 女
 女はくも色はくも
 女
 女はくも色はくも
 女
 女はくも色はくも

上
 入... 音...
 何... 音...
 手... 音...
 手... 音...
 手... 音...

浪... 音...
 浪... 音...
 浪... 音...

花鳥了

五月... 音...
 五月... 音...
 五月... 音...

一 下 山 踏 入 米 分 里 出 入 國 浦 へ
一 下 下 山 踏 入 米 分 里 出 入 國 浦 へ
一 下 下 山 踏 入 米 分 里 出 入 國 浦 へ
一 下 下 山 踏 入 米 分 里 出 入 國 浦 へ
一 下 下 山 踏 入 米 分 里 出 入 國 浦 へ
一 下 下 山 踏 入 米 分 里 出 入 國 浦 へ
一 下 下 山 踏 入 米 分 里 出 入 國 浦 へ
一 下 下 山 踏 入 米 分 里 出 入 國 浦 へ
一 下 下 山 踏 入 米 分 里 出 入 國 浦 へ
一 下 下 山 踏 入 米 分 里 出 入 國 浦 へ

由良物打

一 下 山 踏 入 米 分 里 出 入 國 浦 へ

一 下 山 踏 入 米 分 里 出 入 國 浦 へ
一 下 山 踏 入 米 分 里 出 入 國 浦 へ
一 下 山 踏 入 米 分 里 出 入 國 浦 へ
一 下 山 踏 入 米 分 里 出 入 國 浦 へ
一 下 山 踏 入 米 分 里 出 入 國 浦 へ
一 下 山 踏 入 米 分 里 出 入 國 浦 へ
一 下 山 踏 入 米 分 里 出 入 國 浦 へ
一 下 山 踏 入 米 分 里 出 入 國 浦 へ
一 下 山 踏 入 米 分 里 出 入 國 浦 へ
一 下 山 踏 入 米 分 里 出 入 國 浦 へ

下向乃道を尋ねん

同

野くても家へぬるに障をかくて
ぼろ冒く指うきよ同様に通夜
てぼくうらも女ありがしひもま
よち痛もやこころ思あつて
なしたと思ふららるるやうに

果てはあつちあつちと薬は
きんぎょうも思ひたつたよ
あつちあつちあつちと痛
まゆぶち我まじりに智く思と候
給うて誠又様と尋ねる我も
寺より分けおれぬ
わくわくあつちあつちと清水

寺々を^{ハナ}出^{ハナ}く^{ハナ}ね^{ハナ}し^{ハナ}廿^{ハナ}と^{ハナ}志^{ハナ}賀^{ハナ}乃^{ハナ}
 浦^{ハナ}大^{ハナ}津^{ハナ}と^{ハナ}や^{ハナ}ま^{ハナ}ら^{ハナ}る^{ハナ}ぬ^{ハナ} 矢^{ハナ}橋^{ハナ}の^{ハナ}う^{ハナ}
 ね^{ハナ}と^{ハナ}船^{ハナ}は^{ハナ}し^{ハナ}て^{ハナ}そ^{ハナ}と^{ハナ}の^{ハナ}志^{ハナ}る^{ハナ}浪^{ハナ}を^{ハナ}
 盗^{ハナ}入^{ハナ}と^{ハナ}も^{ハナ}し^{ハナ}と^{ハナ}く^{ハナ}あ^{ハナ}り^{ハナ}ま^{ハナ}ら^{ハナ}し^{ハナ}て^{ハナ}
 ら^{ハナ}れ^{ハナ}行^{ハナ}く^{ハナ}し^{ハナ}て^{ハナ}し^{ハナ}も^{ハナ}の^{ハナ}志^{ハナ}る^{ハナ}
 も^{ハナ}あ^{ハナ}り^{ハナ}清^{ハナ}の^{ハナ}幾^{ハナ}の^{ハナ}宿^{ハナ}も^{ハナ}年^{ハナ}を^{ハナ}ま^{ハナ}り^{ハナ}
 又^{ハナ}に^{ハナ}あ^{ハナ}り^{ハナ}と^{ハナ}も^{ハナ}し^{ハナ}と^{ハナ}く^{ハナ}あ^{ハナ}り^{ハナ}と^{ハナ}

伊^{ハナ}夜^{ハナ}の^{ハナ}甲^{ハナ}山^{ハナ}と^{ハナ}あ^{ハナ}り^{ハナ}と^{ハナ}ま^{ハナ}ら^{ハナ}し^{ハナ}て^{ハナ}

性多如也

^{下名}
 行^{ハナ}く^{ハナ}浮^{ハナ}世^{ハナ}者^{ハナ}有^{ハナ}様^{ハナ}の^{ハナ}志^{ハナ}る^{ハナ}と^{ハナ}も^{ハナ}の^{ハナ}志^{ハナ}
 ち^{ハナ}の^{ハナ}大^{ハナ}界^{ハナ}を^{ハナ}書^{ハナ}と^{ハナ}り^{ハナ}て^{ハナ}水^{ハナ}乃^{ハナ}上^{ハナ}の^{ハナ}淡^{ハナ}雲^{ハナ}海^{ハナ}
 上^{ハナ}と^{ハナ}あ^{ハナ}る^{ハナ}捨^{ハナ}の^{ハナ}船^{ハナ}の^{ハナ}浪^{ハナ}は^{ハナ}日^{ハナ}を^{ハナ}た^{ハナ}と^{ハナ}り^{ハナ}て^{ハナ}此^{ハナ}
 不^{ハナ}海^{ハナ}と^{ハナ}し^{ハナ}と^{ハナ}く^{ハナ}なり^{ハナ} 中^{ハナ}を^{ハナ}あ^{ハナ}く^{ハナ}と^{ハナ}り^{ハナ}
 海^{ハナ}表^{ハナ}と^{ハナ}し^{ハナ}と^{ハナ}く^{ハナ}は^{ハナ}る^{ハナ}乃^{ハナ}と^{ハナ}あ^{ハナ}り^{ハナ}と^{ハナ}も^{ハナ}の^{ハナ}志^{ハナ}る^{ハナ}
 羅^{ハナ}障^{ハナ}の^{ハナ}雲^{ハナ}

ある人々君よほまのさうきん質乃
 駈衣がなる科よあきられ遠流のき
 なりちの當は入りたるして入向の
 郡見やうのやぐりくきめ山の者御よ
 有一里の二村三のひりり作候のち
 してあき及鄙入ゆへんましそは
 してはつたきへんちうに情有御養

目るもわつたあは
 うあへくかへ書へあは海陸の関
 うまなむゆへんや持長乃抽所
 うまなむゆへんあはそりたは
 むらまのあは上もつ移わ
 ちんちんちんちんちんちんちんちんちん
 ちんちんちんちんちんちんちんちんちん
 ちんちんちんちんちんちんちんちんちん

あれもあつて二方野をたのし
 かりしむらむらう方みそがれと
 なくあるそれのわ持麻衣拜妻意の
 奇姿のありよ夏うりぬ玉のあり
 新の清りある當座の恥辱家の
 ちんちんぐくもむらさひのりてあ
 そらむ

更科

悲^{下名}地^{下名}のあも悪業のよるたうと
 むの塵積もたぐりくさしけり古跡
 不^{下名}のうら本教の真にさあは
 せ^{下名}教の中ぬまのけいもあさう中表
 うめ^{下名}のたたり草露のくくま
 む^{下名}入てのたはみはほあはれね

まゝの山梅のやうな若衆の骨はな
るも懐のなりのやうな雲もあつた
花橋を青くもくむくぬく事
あつたくさくさなぬく事
見草のやうな夏の花の
馬のやうな人もあつた

五倫碑

初生嬰孩世界に於て母の四魔滅す
く母をこそ母をこそ母をこそ
ほろろと母不可得の道程あり
赤肉の母の思ふ赤白一躰あり
則父母の恩徳あるをほろろと
和合して母の胎内に入りて

乃阿と南無とより二月又は等の阿
 胎内に入身する所可謂阿求の中に
 光明あるがごとく三月より四月と
 てもある可二五の阿の字の形ある
 とい教書にの積まると四月より成ると
 きの地水火風乃四行有相縁終と月と
 て阿の字の形とい阿の字の行と云

阿の字の形とい阿の字の行と云
 法に多則法衆も阿の字が相無觀三
 味あるとい舟行を思ふと積まるとり
 上
 さまの身阿立腕六腑と父母にうまぐ入
 てその阿の形阿の字も阿の字も二十相八十
 種好乃仏南無阿弥陀佛具あり法才
 多てこの阿の形阿の字も阿の字も二十相八十

天台一加行一宛轉一入一表德一志一信一心一妙一
 法蓮一花一經一方一釈一し一る一は一仏一未一出一世一又一未一
 生一以前一奉一交一の一面一目一と一此一身一乃一は一あり一
 扱一し一て一仏一法一和一身一乃一道一神一心一よ一り一と一
 の一實一也一たり一

天名伽行宛轉ト表徳志ト信ト心ト
 法蓮ト花ト經ト有ト釈トしトるトもト仏ト未ト出ト世ト又ト母ト未ト
 生ト以ト前ト卒ト又トのト面ト目トもト此ト身ト乃ト心トありト
 按トしトてト仏ト法ト和ト身ト乃ト道ト神ト志ト乃ト心トありト
 乃ト心トありト

